

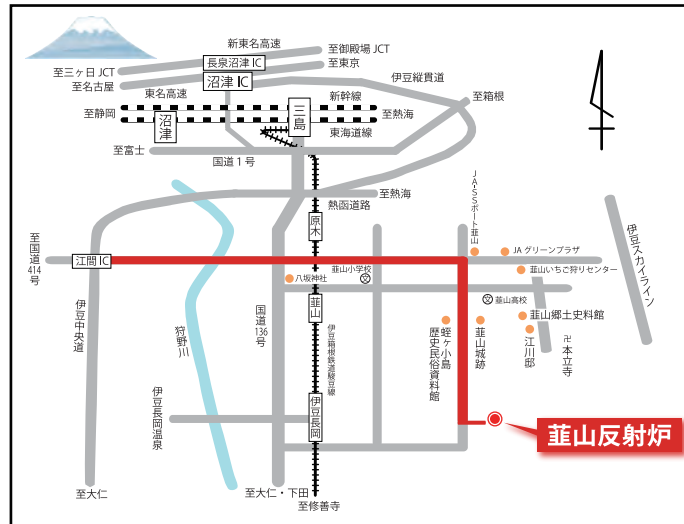
萑山反射炉の歴史

年代	出来事
安政1年(1854)	6月 田方郡中村(現在地)において起工。 閏7月 耐火煉瓦積み開始。 11月4日 安政の大地震、反射炉に別条なし。
安政2年(1855)	1月16日 江川英龍、江戸屋敷にて死去。 8月 江川英敏、幕府を通じて佐賀藩の協力を要請。 12月 佐賀藩、協力を了承。
安政3年(1856)	4月 タール製作小屋できる。
安政4年(1857)	2月5日 佐賀藩より、杉谷雍助・田代孫三郎ら技師および職人到着。 7月1日 南炉試鑄。 9月9日 1番18ポンドカノン砲鑄込み。 11月 萑山反射炉連双2基竣工。 12月4日 1番18ポンドカノン砲鑄込み開始。 12月6日 2番18ポンドカノン砲鑄込み。
安政5年(1858)	1月8日 1番18ポンドカノン砲鑄込み完了。 2月22日 3番18ポンドカノン砲鑄込み。 3月9日 杉谷雍助、佐賀へ帰国。 3月13日 1番18ポンドカノン砲試射成功。 3月22日 田代孫三郎および職人、佐賀へ帰国。 4月22日 3番18ポンドカノン鑄込み完了。 3番18ポンドカノン試射成功。
万延1年(1860)	南部産銃鉄製18ポンドカノン砲1門鑄造、試射成功。
慶応2年(1866)	4月 幕府直営から江川家私営となる。
明治元年(1868)	明治維新。
明治5年(1872)	10月 陸軍省による現地調査実施。
明治6年(1873)	3月 陸軍省に移管、設備・付属品等を造兵司令に引き渡し決定。
明治41年(1908)	陸軍省による補修工事実施。煙突下部を鉄帯にて補強、反射炉本体の周囲にスナイドル銃219挺をもって銃剣柵を設置。
大正11年(1922)	3月8日 史跡指定 。内務省に移管。
昭和32年(1957)	萑山村(当時)による保存修理実施。鉄骨フレームによる耐震補強、煉瓦風化部分へのモルタル充填、炉体天端防水処理等。
昭和60年(1985)	5 萑山町(当時)による保存修理実施。鉄骨フレームの更新、風化煉瓦の差し替え、煉瓦表面への風化防止剤吹き付け、炉体補強、反射炉本体周囲鉄柵・敷地周囲鉄柵設置等。
平成元年(1989)	
平成19年(2007)	11月 経済産業省により「近代化産業遺産」として認定される。
平成27年(2015)	7月 「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産のひとつとして、世界文化遺産に登録。

萑山反射炉基礎データ

名称	萑山反射炉
指定区分	国指定史跡(大正11年3月8日指定)
所在地	静岡県伊豆の国市中字鳴滝入268
所有者	国有(文部科学省)
管理者	伊豆の国市
敷地面積	3,016㎡
高さ	約15.7m
構造	連双2基(4炉) 炉体部 外部伊豆石組積、内部耐火煉瓦アーチ積 煙突部 煉瓦組積(竣工時漆喰塗り)

アクセス



施設のご案内

- 【観覧料】 一般 100円 小中学生 50円
※平成28年4月1日より一般観覧料300円
- 【開館時間】 9時～16時30分
- 【休館日】 12月31日・1月1日
- 【アクセス】 東名沼津IC・新東名長泉沼津ICから伊豆縦貫道江間IC経由約30分
伊豆箱根鉄道伊豆長岡駅から徒歩約20分
- 【駐車場】 あり(無料)
- 【萑山反射炉事務所】 〒410-2113 静岡県伊豆の国市中字鳴滝入268
Tel 055-949-3450 (FAX 共用)

発行：伊豆の国市文化財課

世界遺産・国指定史跡

にら やま はん しゃ ろ

萑山反射炉

Nirayama Reverberatory Furnaces



明治日本の産業革命遺産
エリア3 萑山

静岡県伊豆の国市